

2023年3月16日（木）
渋谷スクランブルスクエア株式会社

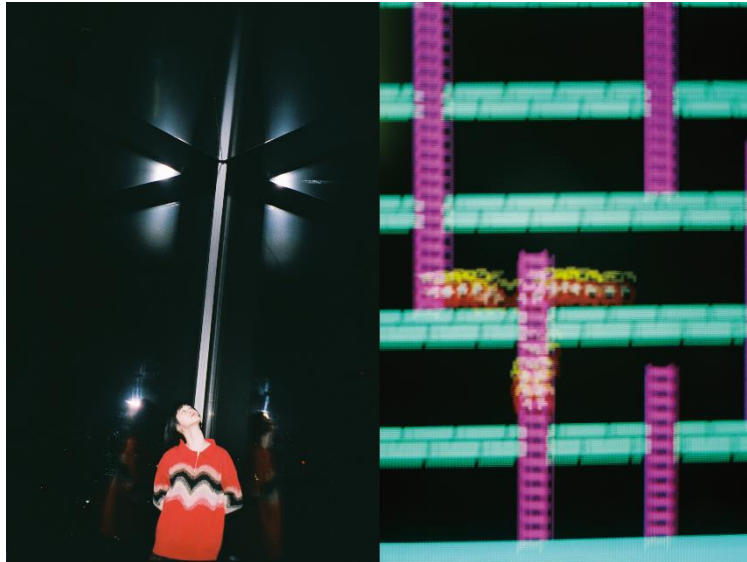
SKY GALLERY EXHIBITION SERIES vol.6の会期とアーティストが決定

写真家 松岡一哲による企画展「Tokyo Games」

2023年5月25日（木）から7月30日（日）まで開催

「渋谷スクランブルスクエア」の14階・45階・46階・屋上に位置する展望施設「SHIBUYA SKY」（以下、本施設）は、「SKY GALLERY EXHIBITION SERIES」と題して、本格的な企画展を定期的に行っています。6回目となる今回は、写真家 松岡一哲による企画展「Tokyo Games」（以下、本展）を開催することが決定しました。開催期間は、2023年5月25日（木）から7月30日（日）までとなります。

「SKY GALLERY EXHIBITION SERIES」は、本施設のご来場者に、渋谷最高峰の景色を眺めるだけにとどまらず、まだ見ぬ世界への興味を抱かせ、想像力を育てる体験を提供することを目的に開催。「視点を広げる」を共通テーマに、アーティストが本施設を体験したインスピレーションから制作された作品を展開しており、3月24日（金）までは「SKY GALLERY EXHIBITION SERIES vol.5『目 [mé]』」を開催中です。



▲展示作品イメージ

「Tokyo Games」展示コンセプト

それぞれがゲームのように何かを掴み取ろうとしている東京の街。
懸命に掴もうとする一人ひとりの営為そのものを写真家・松岡一哲が丁寧にフィルムに収め、『東京』を写し出す。

写真家・松岡一哲は、身近な被写体や日常の場面を切り取りながら、固定観念や言葉の枠組みから取りこぼされる世界の実存をフィルムに焼き付けてきた。2020年にはTAKA ISHII GALLERYにて個展『やさしいだけ』を開催。存在や風景の「あわい」から立ち現れる美しさや、表層でなく深奥から浮かび上がるものを捉え続けている。

「Tokyo Games」と題した本展では、SHIBUYA SKYの展望空間から望むことのできる東京の数カ所の街でポートレートや風景の写真を撮り下ろし、それらを中心に展示することで、展望空間では東京の遠景を、展示空間では近景を、と異なる視点・視座から見つめる体験を提供し、鑑賞者の新たな発見や行動を喚起する。

それぞれがゲームのように何かを掴み取ろうとしている東京の街。懸命に掴もうとする一人ひとりの営為そのものが美しく、それが「東京」を形作り、輝かせているのだと考える松岡は、街の雑然とした風景の隙間やそこで生きるたくさんのひとびとの顔、揺れ動く表情、生活の中の何気ない瞬間や曖昧さから美しさや愛おしさをすくい上げ、丁寧にフィルムに収めた。作品に写し出された「東京」から表出するのは、この世界を肯定する、やさしくも切実なまなざしである。

作品の前で鑑賞者は、作中の他者や場所、そこに流れる時間と繋がり、共鳴することにより、今の東京が内包する寛容で優しい温度を体感し、新たな感覚や行動意欲を自らの内に発見するだろう。そして、それぞれの日常の中で一歩を踏み出す。その一歩から、新しい東京が広がっていく。

他者と遮断され、身体的制限を受けた歳月を越えようとする今、世界の見方を更新するための一つの装置として、本展を開催する。

開催概要

■企画名称：SKY GALLERY EXHIBITION SERIES vol.6 「Tokyo Games」

■開催期間：2023年5月25日（木）～7月30日（日）

■開催場所：SHIBUYA SKY 46階「SKY GALLERY」

■参加方法：

イベント当日のSHIBUYA SKY 入場チケット、もしくは年間パスポートをお持ちの方は、どなたでも鑑賞いただけます。入場チケットのご購入について、詳しくは下記サイトをご覧ください。

<https://www.shibuya-scramble-square.com/sky/ticket/>

※SHIBUYA SKY チケットは数に限りがございます。希望日時のチケットが完売の場合は購入いただけません

※入場後の滞在時間に制限を設けていませんが、退場後の再入場はできません

松岡一哲について

■プロフィール

1978年岐阜県生まれ。日本大学芸術学部写真学科卒業。

写真家として活動しながら、2008年～2016年まで「テルメギャラリー」を運営。世界のものごとを等価に捉えるまなざしで撮影を続けている。ポートレート、ファッション、広告などを中心に活躍中。主な個展に、『マリイ』（Bookmarc、東京、2018年）、『やさしいだけ』（タカイシイギャラリー、東京、2020年）など。2023年4月22日～5月18日にタカイシイギャラリーにて個展予定。

松岡一哲 公式サイト：

<https://www.ittetsumatsuoka.com>

松岡一哲 公式インスタグラム：

<https://www.instagram.com/ittetsumatsuoka/feed/?hl=ja>



▲松岡一哲

Photo by Kenji Takahashi / 高橋健治

SKY GALLERY EXHIBITION SERIES について

渋谷は文化を生み出す街であり、本施設はそんな街との循環によって、渋谷とともに成長してゆく「知的好奇心を育てる施設」を目指しています。そのためにも、本施設のキーマッセージである『展望せよ。渋谷、世界、自分、未来。』を軸に、渋谷で文化を生み出しているパートナーやアーティストとのコラボレーションを通じ、新たな気づきを誘発するカルチャーコンテンツを企画・実施しています。

なかでも46階屋内展望回廊「SKY GALLERY」にて定期的に開催する「SKY GALLERY EXHIBITION SERIES」は、「視点を広げる」を共通テーマに、アーティストが本施設を体験したインスピレーションから制作されたオリジナル作品を主軸に展開する本格的なエキシビションです。

今後も本施設は、「SKY GALLERY EXHIBITION SERIES」を通じて、渋谷最高峰の景色を眺めるだけにとどまらず、まだ見ぬ世界への興味を抱かせ、想像力を育てる体験を生み出します。

■現在開催中の SKY GALLERY EXHIBITION SERIES vol.5 『目 [mé]』

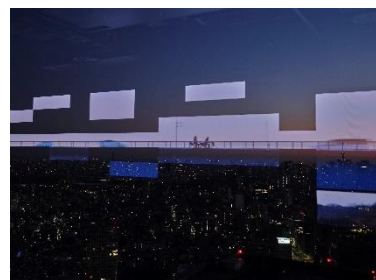
都市の運動から抜け出し「ただ、眺める」。をテーマに、これまで展示空間と観客を含めた状況をつくることで空間を変容させ、現実の不確かさをひとびとに体験させてきた現代アートチーム「目 [mé]」が、自身の視点とSHIBUYA SKYの体験を掛け合わせることで、普段の景色から解放された、ただ物事のありのままを眺める体験をつくります。

SHIBUYA SKYから眺める東京、渋谷、都市とそこを行き交う人々。毎日およそ決まったリズムで同じ横断歩道を渡り、車を走らせ、窓に明かりを灯し、膨大で無常な都市の運動自身として生活を営む「人」としての私たち。

この世界の不確かさを見つめる「目 [mé]」の観点と、非日常から世界を眺めることを可能にするSHIBUYA SKYの視座を重ねることで、都市は一つの大きな運動体でありながら、その運動を担う私たちはそれぞれの固有の時を歩んでいるという世界の姿をただ、眺めることを促します。

開催期間：2023年1月13日（金）～3月24日（金）

開催場所：SHIBUYA SKY 46階「SKY GALLERY」



▲『目 [mé]』展示作品

■これまでの SKY GALLERY EXHIBITION SERIES

<p>vol.1 EVEREST 都市と極地の高みへ</p>	<p>vol.2 FOCAL DISTANCE 焦点距離</p>
<p>開催期間 2020年6月1日～8月31日</p>	<p>開催期間 2020年11月1日～2021年1月17日</p>
<p>写真家石川直樹氏が自ら登り、撮影したエヴェレストの写真がSKY GALLERYの空間構成に沿って展示。当企画は、本施設の体験設計のベースとなっている通過儀礼や山登りの体験構造にフォーカスを当て、体験の類似性と異なるスケールを持った世界の可能性を“直感的”に示すことで、目に見える景色の先に世界はつながっているという事を示唆しています。</p>	<p>アーティストの岩崎貴宏による、観る者の視点に潜む焦点距離を変化させることに着眼した変貌する都市のポートレートの作品を展示。 作家自身が SHIBUYA SKY を体験したインスピレーションから制作されたオリジナル作品を主軸に展開。</p>
	
<p>vol.3 Everyone's sky 消えゆく風景への旅 by TRANSIT</p>	<p>vol.4 DOWN TO TOWN</p>
<p>開催期間 2020年6月1日～8月31日</p>	<p>開催期間 2022年5月20日～7月24日</p>
<p>2020年9月にTRANSITから発行された「TRANSIT49号 美しく消えゆく世界への旅」の誌面企画から、“海（Sea）・森（Forest）・動物（Animals）・眺望（The View）”という4つのエリアに分けて再構成した写真／読み物パネルを<SKY GALLERY>回廊内の壁面4箇所にはりばめ、回遊しながら楽しめる空間展示としています。屋上から360度に広がる景色を体験した後、その先に広がる世界のさまざまな環境問題に目を向けるきっかけをつくりまします。</p>	<p>「DOWN TO TOWN」は、アートチーム「SIDE CORE」がキュレーションする、匿名アーティストグループ「EVERYDAY HOLIDAY SQUAD」による個展です。渋谷で一番高所に位置するSHIBUYA SKY 46階「SKY GALLERY」を展示会場とし、「望遠鏡を覗いて鑑賞すること」や「独自の視点で作られた地図を持って街を歩く」という行為を通じて、アーティストのアイデアに触れながら街を散策(down to town)し、街に対する新しい視点の獲得をうながしました。渋谷という街の中でこそ生まれる特別な体験を提供しました。</p>
	

「SHIBUYA SKY」について

■SHIBUYA SKY

本施設は、14階～45階の移行空間「SKY GATE」、日本最大級の屋上展望空間「SKY STAGE」、46階の屋内展望回廊「SKY GALLERY」の3つのゾーンで構成されております。渋谷最高峰の地上229mから広がる360度の景色を眺めるにとどまらず、一連の体験を通じて知的好奇心を刺激し、想像力を育む展望装置です。

名称：SHIBUYA SKY

フロア：14階（チケットカウンター）、45階・46階（屋内展望施設）、屋上（屋上展望空間）

高さ：地上229m

営業面積：屋上展望空間 約2,500㎡、屋内展望施設 約3,000㎡

営業時間：10:00～22:30（最終入場 21:20）※最新の営業時間は公式WEBサイトをご確認ください

休館日：元日（※臨時休館日あり）

公式WEBサイト：<https://www.shibuya-scramble-square.com/sky/>



<施設およびチケットに関するお問合せ先>

SHIBUYA SKYお問合せ窓口 TEL：03-4221-0229（受付時間10:00～20:00）

<渋谷スクランブルスクエア 概要>

名称： 渋谷スクランブルスクエア／SHIBUYA SCRAMBLE SQUARE
事業主体： 東急(株)、東日本旅客鉄道(株)、東京地下鉄(株)
所在： 東京都渋谷区渋谷2丁目24番12号
用途： 事務所、店舗、展望施設、駐車場など
延床面積： 第Ⅰ期（東棟）約181,000㎡、第Ⅱ期（中央棟・西棟）約96,000㎡
階数： 第Ⅰ期（東棟）地上47階 地下7階、
第Ⅱ期（中央棟）地上10階 地下2階、（西棟）地上13階 地下5階
高さ： 第Ⅰ期（東棟）229.7m、第Ⅱ期（中央棟）約61m、（西棟）約76m
設計者： 渋谷駅周辺整備計画共同企業体
※(株)日建設計、(株)東急設計コンサルタント、(株)JR東日本建築設計、
メトロ開発(株)
デザイン・アキオト： (株)日建設計、(株)隈研吾建築都市設計事務所、(有)SANAA 事務所
運営会社： 渋谷スクランブルスクエア(株)
※東急(株)、東日本旅客鉄道(株)、東京地下鉄(株)の3社共同出資
開業： 第Ⅰ期（東棟）2019年11月1日
第Ⅱ期（中央棟・西棟）2027年度
URL： <https://www.shibuya-scramble-square.com>



▲渋谷スクランブルスクエア外観

<本件に関する報道関係者さまからのお問合せ先>
渋谷スクランブルスクエア PR 事務局（株式会社サニーサイドアップ内）
担当：矢野（080-7934-3745）、金井（080-7310-0134）、齋藤（090-6531-6108）
E-mail：scramble_square_pr@ssu.co.jp